



電気学会 IEEJ プロフェッショナル アクションレポート 2013年7月・第22号

IEEJ プロフェッショナルニュース

ニュース1. IEEJ プロフェッショナル第50回懇談会メモ

1. 日時 平成25年4月23日(火) 15時～17時35分
2. 場所 電気学会会議室
3. 出席者 小山徹、深川裕正、三上亘、植田正紀、深尾正、武子雅一、木村軍司、長谷良秀、羽片日出夫、大島正明、梅田繁樹、森末道忠、大西和夫、熊田稔、寺嶋正之、佐藤信利、谷口元、臼田誠次郎、柴崎一郎、伊藤二郎
4. 講演 深尾正「IEEJ プロフェッショナル制度10年になり創設に当たって考えたこと」
4. 1 最近 IEEJ プロフェッショナル制度についての情報がうまく伝わっていない面があり、話をしたい。

IEEJ プロフェッショナル発足の発端(2000年頃退会者が200～400名位、技術の継続問題、技術者不足、2007年問題、大学講師候補者難、子供の理科離れ・電気離れなど)。活動内容とその課題(中小企業支援、高等教育支援、初等中等教育支援、IEEJ プロ懇談会)。制約条件(定款の範囲、人材不在、採算性(事業を大きくしないで新事業)など)。学会は純粹に人材を紹介(人材派遣しない)。実行組織(トラブル対策、不祥事対策)・制度・規定。ネーミング(認定指導技術者、IEEJ プロフェッショナル)。

2004年9月～IEEJ プロフェッショナル制度検討WG、アンケート(576名回答)、人材派遣事業しない。2005年4月理事会(事業収支、単年度黒字)。2005年7月 IEEJ プロフェッショナル24名認定。大学講義請負制度。事業継続判断事業から除外。2006年12月高等教育機関専門教育請負事業検討会。2007年11月理事会(IEEJ プロ運営委員会)。個人の責任において事業や活動を行う(パートナー認定、情報の提供・取得、会員に対する行事、会員が所属する組織あるいは公共機関と共同の事業の実施・支援)。活動内容とその課題(中小企業支援、有料技術セミナー(IEEJ プロから選ぶことは困難)、活用できる事柄(継承に問題があるテーマ、基礎理解)技術指導はレベルが高すぎる、社員教育は講師の講義能力による)。

都立産業技術研究センター(中小企業支援の可能性)。

高等教育支援(1996年5月25日「若手電気研究者技術者人材育成特別委員会」、電力エネルギー分野の人材等に教員不足、寄付講座、安定した収入源がない(理事会承認時に2年後には事業の黒字化が条件、企業のメリット(学生に知ってもらえる)、大学・高専・学生メリット)

初等中等理科教育支援(子供は理科好き・実験好き、電気苦手な教員が多い)。JSF(日本科学技術振興財団)科学の祭典の活性策(工学的な視野の欠如、出前講義(教員のスキルアップに効果的でない)。武蔵村山市理科教育支援(出前講義避ける(人材確保困難)、教員の相談員制度(パソコンが使えないので制度成り立たない)。



IEEJ 懇談会（独立の組織、ルールなど）。

代わりに（個人の責任、倫理規定、IEEJ プロ倫理規定）

4. 2 質疑応答

理事会では人を紹介するのみといている。知識と経験は会員の行動となる。川口工業高校では電気学会も活用しながら実施している。など

5. 議事

5. 1 第 49 回懇談会（全国大会 IEEJ プロフェッショナル談話室）の議事録が承認された。

5. 2 深尾氏講演に対する質疑応答が時間となったため、5 月 23 日に木村氏講演に引き続き質疑応答を行う。

5. 3 「IEEJ プロフェッショナル WEB ページの開設提案」についても時間切れで次回議題とした。

ニュース 2. IEEJ プロフェッショナル第 51 回懇談会メモ

1. 日時 平成 25 年 5 月 23 日（木）15 時～17 時 30 分

2. 場所 電気学会会議室

3. 出席者 小山徹、深川裕正、三上亘、深尾正、木村軍司、梅田繁樹、森末道忠、
寺嶋正之、谷口元、吉田昭太郎、木村光夫、伊藤二郎

4. 講演 木村光夫「中小企業支援」

4. 1 講演内容

ISO9000、ISO14000 のコンサルタントを約 14 年間実施してきた。4 社（鋳物、溶接・組立、金属リサイクル、プラスチック射出成形に関する会社）、中小企業の経常利益率、中小企業の抱える不安要因・弱い点（海外生産シフト、価格の低下、高齢化、組織ができていない、古い機械、システム対応力が弱いなど）、ISO の目的（顧客満足、若手の育成、親会社からの要請、金融機関からの信用、他社との差別化など）

4. 2 質疑応答

川口で鋳物ができた理由はなにか。ISO の効果（話し合いができる、社長に意見が届く、トップがものを言える、若手の教育となるなど）。省エネとしてやっていることがあるか。など

5. 議事

5. 1 第 50 回懇談会の議事録が承認された。

5. 2 第 50 回懇談会で行われた深尾氏講演に対する追加の意見交換が行われた。

IEEJ プロフェッショナル制度維持のためには会費がかかっている（人件費含む）。新しい事業は 2 年後に黒字としないといけない。IEEJ プロフェッショナルは自己責任でやってもらいたい。

5. 3 「IEEJ プロフェッショナル WEB ページの開設提案」については必要性が明確でないとの意見があった。今後 IEEJ プロフェッショナルの進め方が議論される中で必要に応じて整理する。

5. 4 電気学会創立 125 周年記念「電気学会誌平成 26 年 5 月号特集号「これから 25 年への期待」の原稿作成者の推薦については IEEJ プロフェッショナル懇談会幹部に一任することになった。



ニュース 3. IEEJプロフェッショナル第52回懇談会見学会メモ

1. 日時 平成 25 年 6 月 20 日 (木) 13 時 50～15 時 15 分
2. 場所 防災科学技術研究所
3. 出席者 谷口元、柴崎一郎、羽片日出夫、森末道忠、寺嶋正之、吉田昭太郎、
白田誠次郎、小野幹幸、木村光夫、佐藤信利、志関誠男、野口剛、藤原靖隆、
三上亘、伊藤二郎 (15 名)
4. 行程

防災科学技術研究所 DVD 上映	13 時 50 分～14 時 30 分
大型耐震実験施設	14 時 35 分～14 時 50 分
大型降雨実験施設	14 時 55 分～15 時 15 分
5. 防災科学技術研究所の概要
 - (1) 1963 年 4 月国立防災科学技術センター設立、1990 年 6 月防災科学技術研究所に名称変更、
2001 年 4 月独立行政法人防災科学技術研究所設立
 - (2) 事業規模 170 億円、要員 186 人
 - (3) 主な研究 地震・火山防災研究 (地震・火山観測データ観測、海底地震津波観測網の
整備推進、雪氷防災)、減災実験研究、社会防災システム研究など
 - (4) 大型耐震実験施設 (世界 2 位の 14.5m×15m の大型テーブルを利用して大規模耐震実験実
施が可能である。)
 - (5) 大型降雨実験施設 (世界最大の規模・能力を有する散水装置で、毎時 15～200mm の雨を
降らせることができる。山崩れ、土石流、土壌侵食、洪水災害などの研究を行っている。)

事務局からのお知らせ

IEEJプロフェッショナルに役に立つセミナー情報や大学・学校・教育委員会などでIEEJプロフェッショナルの人たちが活躍できるお話がありましたらお知らせ下さい。

なお、アクションレポートの更新は定期的に行います。

連絡先：一般社団法人電気学会 技術者教育課：森 正美

E-mail：mori(at)iee.or.jp (at)→@ 電話：03-3221-3710